

岡山大学共同利用機器セミナー

～GCMS、LCMSの最新の活用事例～

質量分析法は、各種のイオン化法で物質を原子・分子レベルでイオンにし、その質量数と数を測定することにより、物質の同定や定量を高感度に行う方法です。

その優れた特性から、プロテオーム解析、メタボローム解析などのライフサイエンス分野、有機合成等の工業分野、環境汚染物質分析などの環境分析分野、食品成分分析などの食品分析分野などの幅広い分野で、必須の装置となっています。

中でもGCで分離された物質をイオン化し検出を行うGCMS (MS)、同じくLCを用いたLCMS (MS)は比較的取扱いが容易で、得られるスペクトル等データの汎用性にも優れており、多くの方が利用されています。

本セミナーでは、メタボローム解析を用いた疾患マーカーの開発や食品素材の機能性研究を例に質量分析装置が活用されている具体的事例を紹介し、工業製品の評価等他分野での活用事例も簡単に紹介します。

また、GCMS、LCMS以外にも質量分析装置には「試料導入法」、「イオン化法」、「質量分離法」、「検出法」の組み合わせで多様な装置群が存在します。各質量分析装置の特長についても簡単に紹介します。

セミナー

【日時】9月15日（金）13:30～15:00（1時間半）

【会場】理学部コラボレーション棟2階講習室

【講師】株式会社 島津製作所 分析計測事業部 技術担当

GCMS実施講習

【日時】9月15日（金）15:30～17:00（2時間半）

【会場】自然科学研究科棟405号室

【お申し込み】9月12日（火）必着

参加希望の方は、所属・氏名・職名（学年）・連絡先（メール及び電話）セミナーと実施講習のどちらに参加したいか（両方でも可）を記載したメールを送信して下さい。

【送信先】E-mail : setsubi_COR@okayama-u.ac.jp

【お問い合わせ先】自然生命科学研究支援センター 内線8745

※お申し込み多数の場合は、同じ所属からの参加人数を調整させていただくことがあります。